

スタートの日

新生子豚は、生まれた直後から立ち上がり、母豚の乳房を探し始めます。子豚は一番良い乳頭に吸い付き、腹いっぱい初乳を飲みます。活力はあくまでも主観的な基準です。活力に問題があると感じた場合には、その症状を正確に書きとめておきましょう。機会があれば、1週間分娩の現場に張り付いて、間近で観察してみましょう。分娩にはどれくらいの時間がかかるのか？ 子豚が生まれる間隔時間はどれくらいか？ 子豚が初めて初乳を飲むのはいつか？ また、腹ごとに子豚の活力を評価するためのスコアをつけましょう。



生時体重が小さく生まれた子豚は、すべてのステージでの発育が遅くなる。特に生時体重が900gより小さい場合には、生後2～3日齢での死亡が多い傾向にあり、哺乳期の事故率が高い。調理用のはかりを使って、一腹の中で一番小さい子豚2頭と、一番大きい子豚2頭の体重を測定してみよう。また、測定前に体重を予想してみて、自分の観察眼が正しいかどうか？ 目あわせしてみよう。

リタースコアをつけよう

母豚の腹ごとのスコア（リタースコア）を記録しておくと、過去の産歴での成績を参考にすることができます。以前の分娩の時にはどうだったかを覚えておくことは難しいので、成績を具体的にスコア化し、記録として残しておきましょう。

スコア 1	バラつきあり	股開き、皮膚が乾燥しにくい
スコア 2	ややバラつきあり	やや不揃い、皮膚は適度に乾燥
スコア 3	子豚はやや劣るが、揃っている	例：虚弱などあまり良くない子豚が1頭含まれている
スコア 4	子豚が強くしっかりと、揃っている	子豚が揃っていて、皮膚がすばやく乾く

速い子豚



出生後の経過時間：

0 2 4 6 8 10分

遅い子豚



子豚が生まれた時を0分としています。速い子豚は、10分で乳房に到達し、初乳を飲み始めます。しかし、遅い子豚は、その場に数分間座り込み、母豚の後ろ側を探し回っています。この遅い子豚が初乳を飲み始めるまでには結局1時間半以上かかりました。

暑い？ 寒い？ 子豚に聞いてみよう

子豚の寝方を見ると、寝床が暑いのか、寒いのか、もしくはちょうど良い温度なのかがわかります。決まったルールはありません。子豚は生まれてわずか数日の間に、寝床を見つけ出さなければなりません。必要なら子豚を寝床に運び、その場所を見つける手助けをしてあげましょう。寝床はできる限り、子豚が快適と感じる環境に整えておきましょう。

豚の寝方の観察は、指標になるタイミングで行うべきです。寒い朝方と、暖かい午後の両方の時間帯に観察しましょう。最高最低温度計を設置し、1日の温度格差を調べましょう。ヒーターは適切な強さに調節して使いましょう。床暖房がなくヒーターだけで保温する場合、標準的には分娩直後の子豚で250W（ワット）のランプか175WのPARヒーターが必要です。床暖房がある場合には150Wか100Wのヒーターが推奨されます。通常のランプヒーターと比べて、PARヒーターでは暖かさは変わりませんが、電気代が30%抑えられます。



子豚が快適に感じている時の寝方。ヒーターの下で、横に並んで一緒に寝る。脚は投げ出している。

好ましくない寝方



母豚の脚には分泌腺があり、子豚が母豚の場所を認識しやすいように子豚の好きなにおいを出しています。暖かい寝床を用意してあっても、母豚の前脚の周りで子豚が寝ていることが多いのは、この腺があるためです。



写真の子豚にはもうヒーターは必要ありません。1週齢以降は、ヒーターの強さを半分ずつ弱めていきましょう。もしもくは、温度の低い別のヒーターに取り替えましょう。



他の子豚がみんな母乳を飲んでいるのに、1頭だけ取り残されています。この子豚はどこかが悪いのでしょうか？ 脚が悪いのかもしれません。



子豚たちはこぞってランプの真下に集まり、お互いの上に登ろうとしています。ランプを壁から離して設置し直しましょう。1つのヒーターで2つの豚房を暖めようとはしないで下さい。



ヒーターが付いていますが、子豚はヒーターを避けて寝ています。ヒーターを切りましょう。弱いヒーターに替えるか、ヒーターの位置を上げましょう。



一腹は下痢をしていて、もう一方の腹はしていません。子豚が下痢をしている時には、より暖かく、清潔にしておくことが求められます。

今後のために、早めのレッスン

授乳期間中に最大の発育を得るために、補助的な給餌を行うことが重要ですが、同時に、離乳後の配合飼料に慣らすという目的もあります。子豚の腸に存在している腸絨毛が、配合飼料に適応する必要があるためです。また、子豚は給餌器を見つけることを学ばなければなりません。離乳直後は、離乳前と同じ給餌器を使いましょう。餌付け用飼料は、母豚の頭の近くに置き、ひと握りの餌付け用飼料を撒いておきましょう。あたかも母豚が子豚に、これを食べなさいと言っているように。餌付けは1週齢から始めましょう。餌は新鮮なものでないと食べません。ひと握り程度の新鮮な餌を、できるだけ頻繁に給餌器に入れましょう。そうすれば、常においしい餌を与えることができます。餌の無駄も最小限になり、子豚がどれだけ食べたかも把握することができます。

飼料費は養豚場のコストの大部分を占めます。紙袋飼料は涼しく乾燥した場所に保管しましょう。余分な量は注文せず、餌が本当に新鮮かどうかを、給餌の時に確認しましょう。

餌付けと腸の発達

分娩舎での餌付けは、腸の発達を促します。餌付け用飼料を与えると、離乳時に腸陰窩が深くなります(腸陰窩とは、新しい絨毛組織が生まれるところ)。そのため、腸絨毛の再生が早まります。子豚が離乳後すぐに餌と水を見つけて食べ始めることができれば、離乳後の腸絨毛の萎縮は最小限に抑えられます。

理想的な給餌器



- 明るい色
- 高さは 8cm 以下
- 適切な設置場所
- はっきり見えるように (明るい場所に)
- しっかり固定できるもの
- 清潔に保ちやすいもの

餌が入っていない時には、給餌器は外しておきましょう。また、餌だけでなく、きれいな飲み水も十分に与えましょう。床暖房は、必要のない場合にはスイッチを切りましょう。いつまでも床が暖かく快適すぎると、子豚が餌を食べるための動くのを億劫がるようになります。

見て、考え、行動しよう！

給餌器はどこででしょう？

気が付いた点はありますか？



母豚の後方に置かれた給餌器は、子豚が食べに行きにくく、糞便に汚染されるリスクも高くなります。子豚が食べに行きやすく、清潔で、リスクのない場所に餌箱を設置しましょう。例えば、寝床のそば等です。人間にとっては、手が届きにくく面倒な位置になるかもしれません。しかし子豚のために、それを、文字通り"乗り越え"なければいけません。

通路を増やせば作業が簡単になりますが、費用がかかります。